2026年4月1日
東日本高速道路株式会社

C3 東京外かく環状道路 大泉側本線（南行）シールドトンネルについて（第 2 報）

東日本高速道路株式会社　関東支社が建設する C3 東京外かく環状道路の工事において、大泉ジャンクション（JCT）から発進したシールドマシンにて本線トンネルの掘進を行っていましたが、2026 年 1 月 20 日にシールドマシンのカッター部を回転させる大ギヤ付近から異音が生じたため、1 月 21 日に点検窓から大ギヤの状況を確認したところ、一部に変状が認められました。このため、現在は掘進を一時停止し、詳細点検を実施しております。

詳細点検の一環として、ファイバースコープによる点検および開口部を設置し大ギヤ付近を確認した結果、大ギヤと接する部分（ベアリング）の部材に変状が認められました。ファイバースコープによる点検では、現時点で7割程度の範囲において変状が確認されました。引き続き開口部を増設し、詳細点検を実施するとともに、当該変状の原因推定を進めてまいります。また、開口部を用いた補修計画を検討してまいります。

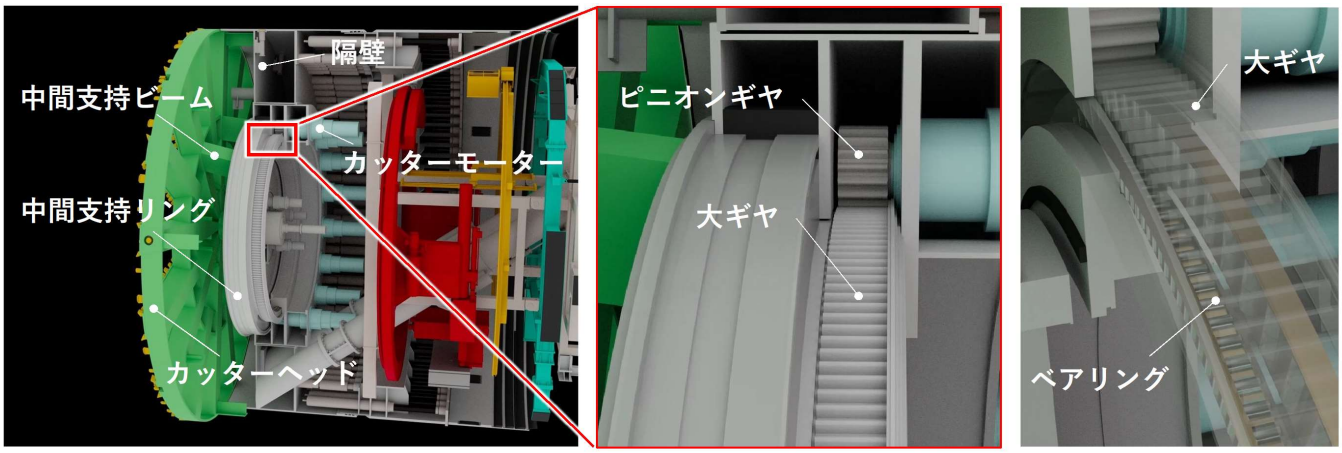
なお、掘進停止中においてもチャンバー内圧力をリアルタイムで管理しております。また、地表面変位についても継続して計測を行っており、いずれも異常がないことを確認しております。

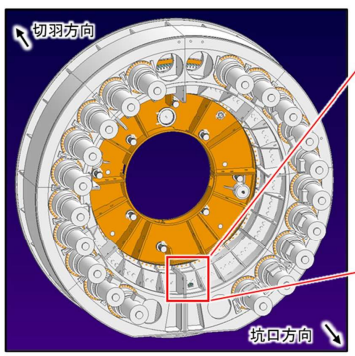
掘進の再開につきましては、あらためてお知らせいたします。

＜大ギヤ等の変状状況＞

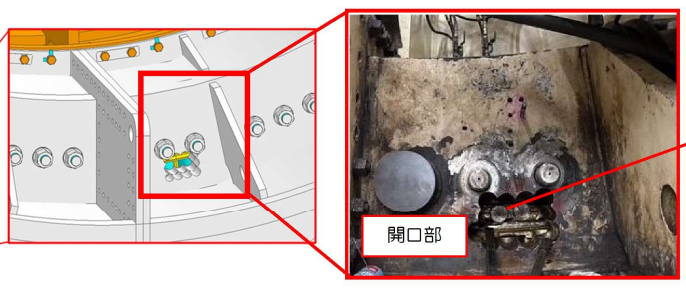
大ギヤはカッターモーターの駆動力をカッター部に伝え回転させるための設備です。また、ベアリングは大ギヤが回転する際の摩擦を低減し、回転を滑らかにする装置です。

これまでの点検の結果、大ギヤ（23か所）とベアリング（7割程度の範囲）に変状が確認されました。





開口部設置イメージ



開口部設置状況



開口部より取出した
ベアリングの状況